

北薩の輝き

令和3年度 第1号 4月23日発行
 所在地：薩摩川内市隈之城町228-1
 電話：0996-20-8771
 FAX：0996-25-3095

良質な教育環境づくりを推進する北薩の教育

「今日もたのしかったです」

北薩教育事務所 所長 尾堂 秀一郎

3月に、4月からの北薩教育事務所勤務を告げられた。北薩地区での勤務は3回目となるが、新聞をめくると、これまで以上に、北薩地区の多くの学校、子どもたち、先生方の様子が目にとまるようになった。3月の記事だけでも、阿久根市立山下小学校での早堀タケノコ収穫体験の様子や薩摩川内市立東郷学園義務教育学校の観梅会での俳句披露の様子、さつま町立流水小学校の5年生児童が、次年度に学校最後の6年生となる決意を述べた投稿、長島町立平尾小学校での卒業ソングの制作の様子など、枚挙に暇がない。各学校においては、コロナ禍の中にあっても、入念な対策を講じ、それぞれの地域に根ざした様々な活動が行われていることがよく分かる。実施時期や行き先をぎりぎりまで検討し、3月になってから修学旅行を実施した学校も少なくないと聞いている。

そのような中、4月13日の新聞に掲載された、投稿時小学校1年生の右の文章が心に残っている。

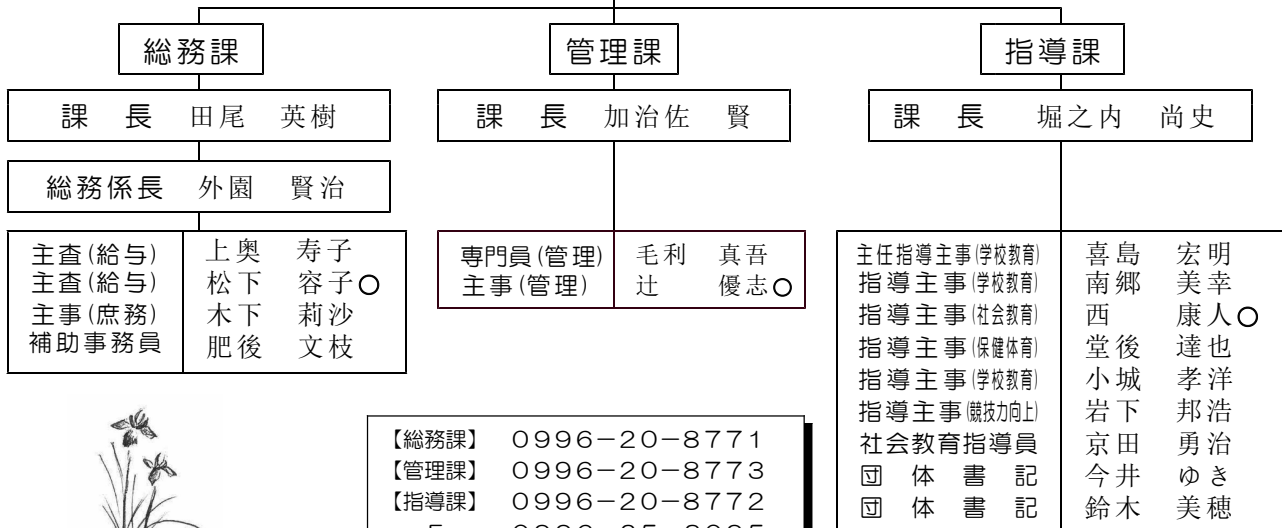
コロナ禍の中で迎えた2度目の春、各学校では、感染予防対策を徹底した上で、始業式、入学式が行われ、新学期がスタートした。令和3年度、北薩地区では、小学校64校、中学校25校、義務教育学校2校の計91校に15,884人の児童生徒が学んでいる。そして、これらの子どもたちの教育に1,567人の教職員が関わっている。さらには、各市町教育委員会のスタッフや教育事務所のスタッフ、様々な関係団体、保護者や地域の方々など多くの大人が、子どもたちを見守っている。学力向上や不登校対策、新型コロナ対応、働き方改革など課題は多いが、すべての子どもたちが、「今日もたのしかった あしたもがんばります」と思える学校生活を送れるよう、子どもたちに関わるすべての者が一丸となって取り組まなければと思っている。

先生、ぼくは、しゅくだいがとてもたのしかったです。
 先生、ぼくは、今日も先生のことが好きです。
 先生、ぼくは、今日のこめのつひがし小学校もたのしかったです。
 本とうにたのしかったです。
 しあわせでした。
 らいしゅうもがんばります。

事務所機構図

所長 尾堂 秀一郎○

○のついた職員は今年度、異動してきた職員です。



【総務課】 0996-20-8771
 【管理課】 0996-20-8773
 【指導課】 0996-20-8772
 Fax 0996-25-3095



今年度も、北薩教育事務所では、年度初めの挨拶回りを中止としました。新たに転入してきた職員を紹介いたします。どうぞよろしくお願いいたします。



多くの子どもたちや先生方と語ったり、様々な自然、名所、旧跡等を訪ねたりして、この北薩地区をよりいっそう好きになりたいと思います。よろしくお願いいたします。(尾堂)



北薩地区は3回目の勤務となります。北薩に戻ることができた喜びをかみしめながら、北薩の子供たちのために微力ながら頑張ります。(西)



北薩地区は4年ぶりの勤務で、大変嬉しく思います。慣れないことが多く、御迷惑をおかけしますが、精一杯頑張ります。(辻)



北薩地区での勤務は初めてです。至らないことも多々あると思いますが、自分にできることを笑顔で頑張りたいと思います。(松下)

授業力向上を目指して

児童生徒に確かな学力を定着させるためには、全ての教員が、よりよい授業を行う「授業力」を高めることが大切です。北薩教育事務所では、「北薩の授業づくり3ポイント」を基に授業力向上を目指しています。

今年度は、特に、ラスト10分の充実を重点にし、授業の中で、この時間を必ず確保することで、児童生徒が「分かった・できた」を実感できる授業づくりを推進していきます。

生徒指導の充実に向けて

児童生徒の心のケアが必要な状況が続いている中、すべての児童生徒が楽しい学校生活を送ることができるように学校が一丸となった取組も今後とも願います。

- ① 生徒指導委員会等の定期的な開催
- ② 定時による校内巡視の徹底(高いアンテナ)
- ③ 環境美化「あるべきものが、あるべき場所に、あるべき姿で！」
- ④ 家庭との連携、信頼関係の構築
- ⑤ SC、SSW等との連携、警察等への訪問

体験活動の奨励を！

ゴールデンウィークがやってきます。今年も新型コロナウイルス感染症対策のために、様々な活動が制約されていますが、**身近にある北薩の大自然**が子供たちを待っています。自然とふれあう**体験活動は、新たな発見や感動を生む絶好の機会**です。PTA等で保護者に家庭で多くの体験活動を奨励し、子供たちに自然とふれあう楽しさに気付かせましょう。

新学期だからこそ丁寧・確実な引継ぎを！

特別な支援が必要な児童生徒にとって、就学や進学時の移行期は、心身共に負担が大きくなります。保護者は、「スムーズなスタートが切れるだろうか」と不安な気持ちを抱かれるものです。だからこそ、学校間や学校内では、移行支援シート等を活用した「支援に関する情報の引継ぎ」を確実にを行い、安心して就学・進学できるようにしましょう。

個別サービス指導強化期間

昨年度は、県下において、懲戒処分の件数がここ数年の減少から増加に転じ、特に、わいせつ・セクハラ事案、飲酒運転などの事案が発生するなど由々しき事態となりました。

サービス規律の厳正確保については、これまでもサービス指導のハンドブック「信頼される教職員・学校を目指して」(ポケット版)等を活用し、取組を進めてきたところですが、今なお県民の信頼を著しく損ねる状況となっています。

そこで、本年度は、4月から5月までを「個別サービス指導強化期間」とし、個別面談や体験型研修等を取り入れながら、教育に携わる者としての使命感・職責感を更に高めていくことをねらいとした期間を設定しました。

この期間に、より実効性のある取組を展開し、全ての教職員が一丸となって県民の信頼回復に努めていきたいと思います。

連載 かごしま「GIGAスクール」推進

パソコンやタブレットなどのデジタル端末を小中学生に1人1台配備し、学校の通信環境も整備する「GIGAスクール構想」。

ICTには何ができるのか、どのように活用するのが便利なのか、逆にICTに任せることが難しいことは何なのか、などについてこの連載で取り上げていきたいと思ひます。

心身の健康と学校の安全を守る

健康観察、感染症対策、避難訓練、交通安全教室…。「自分の命は、自分で守る」取組には他にどのような活動があるでしょう。思考力・判断力を働かせるように、一つ一つの活動に取り組みましょう。

編集後記

花々や新芽の香りもマスク越しの2度目の春。いつになれば、みんなの表情を見ながら楽しい会話が交わせるのだろう。暫くは、感染予防を徹底し、この状況下でできることの充実を図っていく。